



電機・電子産業における  
型取引適正化に向けた取組の  
進捗状況

一般社団法人電子情報技術産業協会 資材管理専門委員会

# 1 金型整理のメリット (会員会社の生声)

- ・業界基準が明確にあり、社内規則を制定しやすかった  
自信を持って社内説得できた (複数社)
- ・以前は、「使うかもしれないので、とりあえず保管しておいて  
もらおう」という状態だったが、型廃棄を積極的に行うよう  
なった (複数社)
- ・GPS、バーコードを用いた金型管理システムを導入し、  
型資産の正確な把握、型管理コスト(現物確認コスト)の低減、  
不要型の引揚・廃棄を加速することができた
- ・コストダウン(管理事務費用削減、償却促進、固定資産税の  
削減等)に繋がった (複数社)
- ・不要な金型の廃棄が進むことにより、トータルでのコストダウン  
に繋がると考える
- ・補給品発注データの分析に繋がり、需給予測、取引先選定、  
コスト分析に寄与している (複数社)
- ・事業部門間での違いが大きい 全社統一基準の宛嵌めは困難
- ・下請事業者側から「コスト積算は、勘弁してくれ」と言われた

## 2 整理上の課題と対応

金型と製品機種との紐づけができていない企業あり

- ・保管要不要の判断ができない
- ・現状では「補給品生産のみ」を把握することができない企業が多い

製品の改廃ないし「量産終了」から追うのは困難

実稼働の有無／最終稼働から整理時期を追うのが適切

一度に償却すると、負担大きい

計画的に整理していく

事業部門が異なれば、技術思想・基準、型自体の大小・使用頻度の違いが大きい

廃棄基準の社内統一化困難

- ・ITツールを活用した管理事務の省力化等効率化が必要
- ・固定資産登録基準未満の価額の型の把握とデータベース化が課題

金型貸与プロセスは、設計・製造主体となっていたが、調達部門主導化が必要

一元システムが必要

### 3 まとめ(課題と施策の方向性)

① 保管費用相当額の基準化  
個別のコスト積上げは難しい

ある程度「割り切った」類型化  
による設定が必要

② 産業機械分野、重電分野  
における指針細部の検討

日本産業機械工業会殿、  
日本航空宇宙工業会殿との  
意見交換・協議を希望

③ 委員会以外会員会社への  
指導

委員会会社とそれ以外の会員  
会社とで、理解度、進捗に差

WEB講習会、相談室開設等

④ 「型に含まれる知財」

含まれる知財、両者の寄与度、  
譲受要否・範囲の検討と  
ルール化、啓蒙

委員会で業界指針検討

⑤ “with コロナ” 下請事業者さん側とのコミュニケーションの取り方

以 上